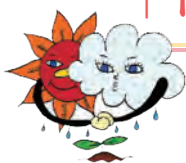


地域おこし協力隊とは、総務省が平成21年度から取り組んでいる制度で、都市部の意欲ある人材が地方へ移住(最長3年)し、地域力の維持・強化を目的とした支援活動を行うものです。

地域おこし協力隊卒業特集

「トモツナグ有機農園」始動



「トモツナグ有機農園」のロゴ



たかやま けん 隊員 30歳 千葉県から移住



NPO 法人友部 commonsの環境再生型有機農業での大豆栽培実験圃場の様子



「みんなで農活 Day」休憩時間は何気ない話に花が咲きます



「みんなで農活 Day」農作業をする様子



普段の農作業の様子(葉物野菜の収穫)

「人々がいつまでも生き生きと幸せに暮らしている社会を農業から探求する」という経営理念を掲げます。

経営理念

「人々がいつまでも生き生きと幸せに暮らしている社会を農業から探求する」という経営理念を掲げます。

協力隊としての期間は言い表せないほど濃密でした。お世話になった皆さんには、感謝してもしきれません。来月からは、笠間市内で「トモツナグ有機農園」を開園します！

今回は、来月から始まるトモツナグ有機農園をご紹介します。

名称の由来

・友部の地で幸せな食と暮らしを、共に未来へツナグ。

・ここに関わる人々がかけがえのない友と繋がり、生き生きと生きるきっかけをつくる。

・人と人を結び付けて離さない繋がりと絆という意味がある「友綱」。

という意味を込めて命名しました。

笠間に来てからたくさんさんの素敵な方たちと繋がってきたことから、人と人の繋がりを作れることが自分の価値ではないかと考え、この名称にしました。

- 達成するには、「いつまでも豊かな環境と食のある地域づくり」と「人々が自分らしく幸せに暮らせる地域づくり」が必要です。そこで、次の方針を打ち立てました。
- ① 環境に優しい農業(有機農業・環境再生型有機農業)を追求する。
 - ② 経済的・時間的に無理なく続けられる有機農業を追求する。
 - ③ 荒廃する広大な農地を守るため、数ha程度の規模での作物栽培をする。
 - ④ 未来の担い手に繋げるため、「みんなで農活 Day」「農業体験」や子どもたちの農業体験、SNS発信などを通じて農業に興味を持つ人を増やす。
 - ⑤ 人々が自分らしく生き生きと過ごせるコミュニティづくりとして「みんなで農活 Day」を実施する。

栽培予定の作物

トモツナグ有機農園では、大きく二つの形式「小麦・大豆の有機栽培の輪作」「少量多品目の有機野菜栽培」で作物栽培を実施する予定です。

「小麦・大豆の有機栽培」は、初年度は10a程度から開始し、将来的には数ha程度の規模に拡大させる計画です。そのために、安定した販売先の開拓に取り組みます。また、小麦粉やうどん、味噌など、自社ブランドでの委託加工品を笠間市周辺の直売所などで販売していく予定です。

また、NPO法人友部 commonsや茨城大学教授の小松崎将一さんたちが実験をしている「環境再生型有機農業(※)」での大豆栽培で、経済的に成立する栽培体系が確立された際には、トモツナグ有機農園で真っ先に実用化したいと考えています。

「少量多品目の有機野菜栽培」は、笠間市周辺の直売所のほか、笠間市周辺や都内で開催されるマルシェで販売する予定です。

※畑を耕さないなど土壌の生態系をかき乱さない工夫をし、土壌の劣化やCO2放出などを防ぎ、持続可能な食料生産を目指す農法。

農業体験の受け入れ

協力隊期間中に実施していた「みんなで農活 Day」を「トモツナグ有機農園」の事業として継続します。農作業日の一部を「みんなで農活 Day」とし、この日はだれでも農園に来て、作業を体験できます。また、子どもたちの農業体験も積極的に受け入れようと考えています。これらの体験で農業がより身近となり、日本の農業の現状や課題に関心を持ち、理解を深めてもらえればと考えています。

最後に

協力隊卒業後も笠間に定住し、独立した有機農家として挑戦を続けていきます。

笠間に来てから、皆さんとの出会いを通して高い視座を得られ、成長できたと思います。これは、私の活動をあなたにたく支えてくださった笠間の皆さんのお陰です。とても濃厚で有意義な2年10か月をありがとうございました！！

今後は、「トモツナグ有機農園」をよろしく願います！！



トモツナグ有機農園公式 SNS 旬の野菜や出店、「みんなで農活 Day」などの情報を随時発信します



フェイスブックもご覧ください



問 企業誘致・移住推進課(内線592)

地域おこし協力隊とは、総務省が平成21年度から取り組んでいる制度で、都市部の意欲ある人材が地方へ移住(最長3年)し、地域力の維持・強化を目的とした支援活動を行うものです。

地域おこし協力隊卒業特集

不思議な縁に導かれて



みかみのりこ 三上 紀子 隊員 60歳 東京都から移住



二年と半年の短い期間でしたが、笠間市地域おこし協力隊を自分なりに一生懸命に務めさせていただきました。ただ、果たして私はどのくらい笠間の皆さんのお役に立つことができたのか気になると思います。

思えば、主人に連れられてはじめて観光で笠間を訪ねたのは、もう20年以上も前になります。東京から車で一時間と少し。週末のドライブには常磐道は楽しい経路で、笠間をもってこいの目的地でした。

もともとアート好きだった私たち夫婦は、笠間の作家さんの陶器を見ながら街なかを歩いたり、工芸の丘を散歩するのが大好きになりました。訪ねる度にお気に入りのギャラリーで器を手にとり、購入するのが楽しみとなりました。

ある時は愛車で笠間から峠を越えて、つくば方面まで行き、東京への帰路につくこともありました。上郷地区での「田んぼのオーナー制度」に参加した年もありました。初めて田んぼに裸

足で入り、田植えのお手伝いをして、秋には稲刈りも体験しました。木造の小学校跡地の校庭で地元の方たちが炊き出しでもてなしをしてくださった芋煮の美味しさは今でも忘れられません。

このように、夫婦で年に数回訪れては、その時々で笠間で余暇を楽しませていただきました。そんな折、笠間市で協力隊として活動をさせていただけしたのは、なんと不思議な縁だったのでしょうか。

幸い、これまで約30年間、建築の専門家として仕事をしてきたことを面接でお伝えしたところ、その経験を生かして「まちの継承」というテーマで活動をしてはどうか、ということになりました。

それからの二年半は、本当にあつという間でした。

地域交流センターや市内小学校で建築の楽しさを伝える「建築ワークショップ」、市民の皆さんと企画し歩く「まちあるき」、市有施設である笠間の家で建築を語り合う「たてものがたり」を行いました。

「まちあるき」は、まちの再発見・再発掘を合言葉に、岩間エリア・稲田エリア・穴戸エリアの3ヶ所を歩きました。番外編で笠間市民の有志の方々と大郷戸・箱田でのまちあるきも行いました。

市販のストローで家の構造を理解する「ストローハウス・ワークショップ」では、毎回子どもたちの創造性の豊かさに驚かされ、小さな家をつくる「段ボールハウス・ワークショップ」にも参加しました。

一方、「たてものがたり」は、憧れの建築家・伊東豊夫先生設計の笠間の家での毎月の勉強会

を通して、笠間にあるいろいろな場所や建物についての「物語」を、参加者のメンバーと一緒に熱く語り合いました。

これらの事業のすべてにおいて、笠間の市民の方々には本当にお世話になりました。まちあるきのための資料探し、ルートの検討、まちの地理や歴史、さらにはまちの文化や民話について等々。

当初は分からない事ばかりで、手探り状態で突然お尋ねしても、優しく丁寧に対応くださり、一からご指示・ご指導くださいました。この場をお借りして心から厚く感謝を申し上げます。

本当にここには書き尽くせないほど、楽しくて夢中であつという間に過ぎた2年半でした。できることなら、あともう少しこの活動を続けていきたいと思いますが、任期ですので仕方がありません。

いろいろ悩んだ結果、協力隊退任後は、「かさまくらしLab」という名の一般社団法人を笠間で立ち上げ、仲間と一緒にこれまでの3つの活動を継続していければと思っています。まだまだ未知な団体と思いますが、まちで見かけましたらどうかお引き立てください。

最後になりましたが、隊員としての活動をご支援くださった笠間市役所の皆様のご厚情に深く感謝申し上げますとともに、笠間市の益々のご繁栄を心より祈念いたします。短い間でしたが、本当にありがとうございました。



フェイスブックもご覧ください

問 企業誘致・移住推進課(内線592)